

当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第70号

発行:2019年10月30日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-1360

報恩講並びに秋季永代経法座

親鸞聖人のお法りを喜ばせていただきますよう

日時 11月16日(土) 9:00~15:00頃

ご講師 北山 祐章師(福山市沼隈 光源寺住職)

朝席 9:00~11:30

とき
お斎(お食事) 地域の皆様が精進料理を用意して下さいます。

昼席 13:00~15:00

第97回歎異抄輪読会

日時 11月21日(木) 14:00~15:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

お知らせ

昨年の西日本豪雨災害により、当山の石垣が危険な状態になっておりおります。この度、石垣修復も含め、天龍寺の大きな課題であった駐車場の造営をする事になりました。

工事は来年の3月の下旬から4月にかけて始まり、夏ころには完成の予定です。これまで駐車場が手狭なために色々ご迷惑等をおかけしてはりましたが、この工事で大きな課題を克服する事になり。ありがたいことであると思っております。

みなさまにご利用いただきますればありがたいと存じます。

身体は衰えていきますが、欲は衰えません。なかなか厄介なことです。

近頃、つくづく思います事に、還暦を過ぎ身体が衰え始め、身体が衰えると同様に自らの煩惱（欲）も衰えれば、これまで生きて来た人生を歩めない私としましては、今よりは少しは心安らかに心豊かに残りの人生をあゆむことができるだろうかと考える事があります。

しかしながら、身体は衰えていきますが、残念ながらまったく衰えない自らの煩惱（欲）を鑑み、あらためて自らの娑婆の縁が切れるまで、苦悩の人生を歩んで行く自分に気づかされる事があります。

さらに、どれだけ生きても自分の思い通りにならない境涯を、少しでも自分の思い通りにしようと日々悪戦苦闘しながら人生を歩まざるをえない存在であると気づかされることであります。

また、いくら長年連れ添った夫婦であろうが、血を分けた親子・兄弟であろうが、同じ空間にいる時間が多くても価値観が違い・性格も違う等の理由から、各自それぞれが見たいものを見、聞きたいものを聞き、感じたいものを感じながら生きていとも考える事があります。

さらに人間は何処までいっても自分に囚われ、自分の考え・思いを通したいが故に自分の気づかないところで大切な人と傷つけあい・苦しみあいながら生きなくてはならない哀しい存在だとも謙遜ではなく自分を通して思う事があります。

また、出遭いがあれば別れがあるのが、世の常です。学校を早期退職させていただき、早いもので10年が過ぎ、その10年間で幼少よりお世話になった方も含め多くの別れを経験したことであります。あらためてお釈迦様がお説きになられた「愛別離苦」の言葉の如く、残念ながら限りのある世界に生を受け、生きているゆえに、いくら愛おしいと思ってもいくら愛し合っても、どこかで悲しい別れをしていかななくてはならない宿命を背負いながらの人生を歩んでいる自分であることも、この10年間のご縁を通して実感させていただいたことでもあります。

この点もしみじみ感じる事ではありますが、桜は桜の輝きしか放つ事しか出来ず、田んぼの畦に咲いている小さな花は、小さな花の輝きしか放つことができないと思う事です。花にたとえたら私はどのような花か分かりませんが、私なりの輝きしか放つ事が出来ないと思う事です。さらにいつも満開の花を咲かすことができない自分であり、その時なりの自分の輝きを放ちながらの人生で良いとこの年になり少し思えるようになりました。

一方で、当山にある100年近い古木の桜は、雨がたくさん降ろうが、風が吹き枝木が折れようが、年数を重ねるごとに苔が増えて行こうが、毎年春になればその年にしか放てない精一杯の輝きを放っていると考える事もあります。年を重ねれば、腰が悪くなり・膝が悪くなり・目が見えにくくなり・耳が遠くなっていきます。その様に身体が衰えながらも、当山の古木の桜の如く、その年齢に応じた輝きを放ちながらの人生を過ごしていければとも思う事でもあります。

みなさまにおかれましては、日々与えられるご縁は、ほとんど自分の意図しない・願わないご縁だと思えます。「何故この様な健康状態になったのか。何故この様な経済状態になったのか。何故この様な家庭環境になったのか。」等々あげたら切りがないと思えますが、与えられたご縁の中で、その日その日に置かれたところで、古木の桜の如く、それぞれにその時その時の自分なりの精一杯の輝きを放ちながらの人生を歩まれます事、さらになかなか難しい事ではありますが、度々ご教示をいただく事ではありますが、順縁・逆縁も含め全てのご縁を大切にされましてこの一度の人生を歩まれます事を念じ申し上げます。